

卯月 20 詠

若葉

たなか踏基



若葉寒
凭れて二人
黙しけり

包みきれず
残す若葉や
夫婦岩

ハラリと衣
脱ぐ女風呂
若葉晴れ

饒舌な
若葉に結ぶ
願い文

片おもい
重ねてみたき
若葉影

しふしふと
艶夢をさます
若葉風

若葉雨
立ちすくむ愛
石の裸婦

待ちわびて
棲む鳥焦がる
里若葉



山霊に
祈る陽光(ひかり)や
森若葉

白樺に
音鳥一翔
揺れ若葉

若葉季に
川面眩ゆし
魚つるむ

爪赤く
掌のしずくや
若葉雨

若葉茂り
細るおもいで
待つ少女

紅拭う
仕草嬉しき
窓若葉



若葉萌ゆ
ベッドの女体
もてあまし



しのびてぞ
梢を擦る
蔦若葉

もみずるの
若葉に恋の
翳りかな

人妻の
触る茎紅き
濡れ若葉

桃色の
耳輪外して
若葉揺る

襟立てし
うなじを弄る
若葉風